

令和4年度学校評価総括表

徳島県立阿南支援学校

教育目標	本年度の重点課題
<p><徳島県教育の基本目標></p> <p>とくしまの未来を切り拓く，夢あふれる「人材」の育成</p> <p><学校経営基本方針></p> <p>1 教育方針</p> <p>一人一人の特性に応じた教育を行い，その可能性を最大に伸ばし，社会参加や自立につながる児童生徒の育成を図る。</p> <p>校 訓</p> <p>あかるく ゆたかに たくましく</p> <p>2 教育目標</p> <p>(1) 自らが生活するための基礎的な力を身につけ，進んで身の回りのことができる児童生徒を育てる。</p> <p>(2) 健康で安全な生活に努め一人一人に応じた体力づくりを行い，粘り強く活動できる児童生徒を育てる。</p> <p>(3) 学ぶことに興味をもち，豊かな感性を養い，自分の思いを表現できる児童生徒を育てる。</p> <p>(4) 生活経験の拡大を図り，人との関わりを深め，集団生活で協調できる児童生徒を育てる。</p> <p>(5) 社会生活に必要な知識や技能を習得し，積極的に社会参加・自立できる児童生徒を育てる。</p>	<p>1 安心・安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・感染症予防，事故防止対策の徹底・各種の災害に備える防災対策の充実・即時の課題共有と解決策の立案・実践 <p>2 多様性を育むキャリア教育の展開</p> <ul style="list-style-type: none">・本人中心の教育の実現・卒業後を見据えた指導内容の精選・教員の専門性，指導力の向上・ICT機器を活用した教育の推進 <p>3 地域とともにある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・地域と連携した教育活動の推進・地域交流及び地域貢献活動の展開・コミュニティスクール制度を軸とした学校運営

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 児童の安全や健康についての情報共有及び事故防止対策の徹底	評価指標 1 学部内アンケートにおいて、児童の安全や健康について情報の共有ができたと回答した学部教員が、全体の90%以上になる。	評価指標の達成 児童の安全や健康に関する情報共有について、アンケートでは「共有できた」「概ねできた」と全教員が回答した。	総合評価 (評定) B	児童の安全や健康に関する情報共有においては、学部会や職朝を通して密に行うことができ、今後も継続していきたいと考えている。感染症対策については、現状と同様の対策をしながら、今後の状況を見て見直し等を図っていく必要があると思われる。 事故防止対策については、アンケートでは「できた」「概ねできた」との回答が96%であり、学部として対策ができていたと考える。しかし、「児童がつまずくなどがあるため、各教室の廊下前に置いている物品の整理が必要」という意見もあったことから、今後廊下や教室内の物品の整理についても今後考えていく必要がある。
	活動計画 1-①感染症予防のために、手洗いや手指消毒、検温等を適宜行い、健康観察を常に行う。 1-②授業場所の換気や、学習時や給食時の机の配置等を工夫する。 1-③毎日1回は各学級をまわって、児童の状況等を確認し、環境設定等が不十分であれば改善する。 1-④月2回の学部会において、各児童の健康や安全に関する配慮事項について、毎回情報共有の時間を設定する。部会欠席者には部会記録を後日回覧し、全員に伝達する。 1-⑤けがや事故につながる恐れのある事象については、インシデント・アクシデント報告書を作成し、注意喚起や事故防止対策を行う。 1-⑥職員朝会や部会で周知し、共通理解と注意喚起を図る。	活動計画の実施状況 1-①手洗いや消毒の徹底と、体調を見て検温を適宜行うなどの健康観察に努めた。 1-②教室の換気、授業・給食時の距離や机の向きの工夫、ゴーグル等の使用を実施した。 1-③児童の様子を毎日確認するように努め、必要に応じてクラス対応にするなど感染対策を行った。 1-④学部会や終礼で、児童の健康や安全に関する状況等の情報共有の時間を毎回設定し、配慮事項などを全員で確認するようにした。 1-⑤事故やけが等の事例があったときには報告書を作成し、職朝等で伝え注意喚起を行った。 1-⑥児童の安全面や健康に関して配慮事項が生じたときには、職朝で共通理解を図った。	(所見) 感染症予防としては、活動計画に加え、必要に応じて集会を分散で行ったり、クラス対応での活動を実施したりした。 事故防止対策については、そのような事象が起きたときにすぐに報告等を行い、学部内で周知を行った。それにより、注意喚起を図ることができ、事故防止につなげることができたと考える。	
[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の展開 [下位組織レベル] 1 基本的な生活習慣や日常生活に必要な基礎的な知識・技能を養い、児童の自立度を高める。	評価指標 1 個別の指導計画の短期目標設定時に、「日常生活の指導(朝・給食・帰り)」の日常生活チェックシートを活用して、目標を1つ以上設定する。その目標を達成した児童が全体の90%以上になる。	評価指標の達成 日常生活チェックシートを活用して個別の指導計画の短期目標を前期・後期ともに1つ以上設定した。前期目標の達成率は95%、後期目標の達成率は90%であった。	総合評価 (評定) B	日常生活の指導については、チェックシートの活用により、児童のほとんどが目標を達成することができている。今後も、日常生活の指導において、子どもの実態に合わせて自立度を高めていく取組を継続していきたい。 グループ検討会については、各グループのリーダーが取組経験がある教員がほとんどであったため、スムーズに検討会を実施することができた。今後も取組を継続していくために、リーダーを担う人材の育成が今後の課題であると考えている。 2月に実施するアンケートも参考にしながら、来年度の取組について検討し、必要に応じて改善を図りながらより良い取組になるようにしていきたい。
	活動計画 1-①4、5月に「日常生活の指導(朝・給食・帰り)」の日常生活チェックシートを活用して実態を把握し、短期目標の立案をする。 1-②4グループに分かれてグループ検討会を実施し、進捗状況を確認する。目標や手立てについて検討が必要なケースや指導方法で悩んでいるケースについて、グループ内でアイデアを出し合う。 1-③日常的にポジティブな支援を意識できるように、グループ検討会で児童への褒めエピソードを発表し合う。 1-④個別の指導計画の評価後に、達成状況をまとめる。 1-⑤年度末に学部教員にアンケートを実施し、次年度の課題と改善策を検討する。	活動計画の実施状況 1-①日常生活チェックシートを使用して児童の実態把握を行うとともに、各児童1つ以上短期目標を立案した。 1-②2ヶ月に1回程度、各グループで検討会を実施した。相談した事例においては、指導方法や環境設定を見直すことで、指導の改善を図ることができている。 1-③自分の褒め方だけでなく、他教員の褒め方についてのエピソードも多く、色々な褒め方を共有することができた。 1-④アンケートを実施し、前期・後期目標の達成状況をまとめ、把握した。 1-⑤2月以降に取り組みに関するアンケートを実施し、必要に応じて改善を行っていく予定である。	(所見) 前期・後期の目標達成率から、日常生活チェックシートの活用が、児童の実態把握や適切な目標設定に有効であったと考える。 グループ検討会では、日常生活の指導に関する事例以外にも、普段の指導で悩んでいることについて相談することもできており、指導について一緒に考える良い機会になっている。	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価		
[本年度の重点課題] 地域とともにある学校づくり [下位組織レベル] 1 地域と連携した教育活動による社会参加への関心と意欲の向上	評価指標 1 学部内のアンケートにおいて地域交流および地域と連携した活動により社会参加への関心と意欲の向上につながったと回答した学部教員が80%以上になる。	評価指標の達成 地域交流および地域と連携した活動に関するアンケートにおいて、「とてもよい」「よい」と回答した教員が86%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 活動について肯定的な回答が得られ生徒の社会参加への関心と意欲の向上につながる活動であったといえる。インターンシップ事業では事業所就労を希望する生徒を対象にした取り組みが実施できた。エシカル活動は各行事との兼ね合いで実施時期が遅れた。OLUYOとの交流ではコロナの影響で1回が中止、1回はZOOMによる活動となった。	教委委員会事業であるインターンシップ(農福連携)およびSDG's(はびエコ)は継続して実施する。予算の都合もあるが今年度に引き続き実態に応じた取り組みを検討したい。同様に学部全体で行う活動と音楽や陶芸交流など各教科毎で実施できる活動についても検討したい。また、単発で終える活動だけでなくZOOMによる経過報告など継続して実施することで生徒の社会参加への関心や意欲の向上につなげたい。
	活動計画 1-①地域との学校間交流を年間2回(2校)行う。 1-②地域の事業所と連携したインターンシップ等の活動を行う。 1-③地域人財を活用した交流活動を行う。 1-④特別活動および生活単元学習において事前事後学習を行い、地域生活について学ぶ機会をもつ。 1-⑤年度末に教員アンケートを実施し、達成度の確認と次年度への課題と改善策を検討する。	活動計画の実施状況 1-①学校間交流を2回(2校)行った。 1-②地域の事業所2カ所と連携したインターンシップ等の活動を行った。 1-③OLUYOとのZOOMによる交流活動を行った。 1-④すべての活動で学部集会や生活単元学習において事前事後学習を行った。 1-⑤アンケートを実施し達成度を確認し、次年度への課題と改善策を検討した。		
[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の推進 [下位組織レベル] 1 ポジティブな行動支援により小中高がつながる学びの推進と情報共有	評価指標 1 生徒の実態に応じて「朝・給食・帰りのチェックシート」または「清掃のチェックシート」を活用して個別の指導計画の目標を立て、目標を達成した生徒が全体の90%以上になる。	評価指標の達成 1 2タイプの「チェックシート」を活用して日常生活の指導の目標を立てた生徒の割合は76%。このうち目標を達成した生徒が92%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 前期・後期の目標達成率から「チェックシート」の活用が生徒実態把握や目標設定において有効であったと考えられる。また日常生活の指導の時間において実態に応じてグループ編成し清掃等の実践を行うなど効率的なシステムを構築することができた。日常生活の指導に関してグループ毎の検討を多く持ったことで細かな指導方法の検討に役立った。全体での報告会をもつ機会が少なかった。2件の個別事例について担任から課題があがり全教員で指導方法について検討し、第3層支援を実践することができた。	引き続き「チェックシート」を活用することで正しい実態把握と目標設定の参考にする。日常生活の指導の時間におけるグループ毎での取り組みも継続して行う。全体報告会の機会が十分に設定できなかったため次年度は組織体制を確立し計画的に進める必要がある。高等部への系統的な取り組みとして個別課題を教員全員で検討する第3層支援は昨年度から実績を上げていると思われるため継続して実施したい。
	活動計画 1-①小学部で活用する「朝・給食・帰りのチェックシート」、高等部で活用する「清掃チェックシート」を活用し、正確な実態把握と指導目標の設定を行う。 1-②生徒の実態に応じて日常生活の指導のグループ編成を行い、実践の効率化を図る。 1-③定期的(年間3回)に報告会を持ち、進捗状況を確認して指導方法の改善を検討し、生徒のスキル獲得と自主性の向上に役立てる。 1-④日常生活の指導以外個別課題について記録を取り、報告会にて提案して指導方法の改善やアイデアを出し合い実践に役立てる。 1-⑤コンサルテーション事業を活用し、具体的な指導方法について助言を頂き、全教員で情報共有する。 1-⑥クラスまたはグループ毎の取り組みについてまとめ、事例報告集として成果を教員間で共有する。 1-⑦年度末の個別の指導計画評価後に達成度を確認したり、学部教員アンケートを実施し、次年度への課題と改善策を検討する。	活動計画の実施状況 1-①2タイプの「チェックシート」を活用して生徒の実態把握を行い、実態に応じて目標設定の参考とした。 1-②日常生活の指導の時間において実態に応じたグループを編成し、実践を行った。 1-③各グループにおいて必要に応じて検討会をもち指導方法の改善を行った。学部での報告会を1回実施した。 1-④生徒2名の個別課題について担任より報告会にて提案し、指導方法の改善について検討し実践した。 1-⑤生徒1名についてコンサルテーション事業を活用し指導方法についての助言を受けた。全教員で情報共有を行った。 1-⑥各クラス1事例を事例報告集としてまとめ、全教員で情報共有を行った。 1-⑦指導計画評価後に教員アンケートを実施し次年度への課題と改善策を検討する予定。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

[令和4年度学校評価総括表 高等部]

(学校名：徳島県立阿南支援学校)

重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価		
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 感染症予防，事故防止対策の徹底	評価指標 1 学部の開催時に，感染症予防や事故防止に向けた情報共有・対応策検討の機会を設ける。	評価指標の達成度 1 学部会や学年会において，感染症予防や事故防止に向けた対応策の検討を行い，職員間での連携をはかり，情報共有のための機会をもった。	総合評価 (評定) B (所見) 感染症予防に留意した配膳方法に基づいて給食指導を行うなど，状況に応じた対策を講じられた。生徒に関するトラブルについて，早急に学部内での周知をはかり，再発防止に向けての協議を行うことができた。	新型コロナウイルス感染症については，予断を許さない状況が当面は続くと考えられる。徳島アラート等各種警報の発出状況を見据えながら，感染予防のための対策を講じる必要がある。生徒に関するトラブルについては，教員間における情報共有を徹底し，学部をあげて問題行動の予兆を把握し，未然防止に努めるとともに，発生してしまった場合の迅速・適切な対応策について，平時より検討し，準備をしておくことが重要である。
	活動計画 1-①感染症や事故に関する情報を管理職に報告するとともに学部会等で共有し，対応策を検討して周知する。 1-②事故及び重大な事故や怪我につながるおそれのある事案について，「インシデント・アクシデント」の報告書の作成を促し，高等部の共有フォルダにて管理し，情報共有をはかる。	活動計画の実施状況 1-①感染症や事故に関する情報を管理職に報告するとともに学部会や学年会で共有し，具体的な対応策を検討して周知をした。 1-②事故及び重大な事故や怪我につながるおそれのある事案について，「インシデント・アクシデント」の報告書の速やかな作成を促し，高等部の共有フォルダにて管理し，情報を共有した。		
[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の展開 [下位組織レベル] 1 コミュニケーション能力・社会性の育成 2 ICT 機器を活用した教育の推進	評価指標 1 コミュニケーション能力・社会性の向上が見られた生徒が80%以上になる。 2 行事ごとにホームページの更新を行い，高等部の教育活動についての情報発信を行う。	評価指標の達成度 1 90%以上の生徒に，コミュニケーション能力・社会性の向上が認められた。 2 多岐にわたる様々な行事ごとにホームページの更新を行い，高等部の教育活動についての情報発信を行った。	総合評価 (評定) B (所見) 自立活動で扱ったソーシャルスキルトレーニングの指導内容・方法について，外部講師のアドバイスを受けて改善・充実に努めたこと等により，授業での学びを学校生活全般に有機的に反映させることができた。生徒たちが参加した校内外の様々な行事に関して，ホームページにアップロードしてその活動内容について紹介するなど，情報発信を行うことができた。	新型コロナウイルス感染症の影響で，日常生活におけるコミュニケーションの取り方にも，感染防止に配慮した工夫が必要とされ，他校との交流及び共同学習についても，積極的に推進することが難しい状況が続いている。このことに鑑みつつ，コミュニケーション能力や社会性を身につけるための教育活動のあり方について，引き続き検討していかなければならない。遠足や数学旅行等の学校主催の行事の他にも，地元を拠点をおく様々な組織やグループと連携した活動を行い，その内容についての情報発信を行うことで，地域に根ざし，開かれた学校のイメージの，さらなる浸透をはかる必要がある。
	活動計画 1-①個別の指導計画において，コミュニケーション能力・社会性の向上に関する目標を立て，実践する。 1-②個別の指導計画において，コミュニケーション能力・社会性の育成に関する項目の評価が向上しているかどうかをチェックする。 1-③自立活動で扱うソーシャルスキルトレーニングの指導内容・方法を検討し，共有する。 2-①遠足や就業体験，修学旅行等の行事ごとにホームページの更新を行い，活動内容についての情報発信を行う。	活動計画の実施状況 1-①②個別の指導計画において，多くの生徒にコミュニケーション能力・社会性の育成に関する能力の向上が認められた。 1-③各学科・コース・グループ毎に，担当者が中心となって学習計画を立て，指導を行った。また，外部講師を招聘して課題のある生徒のコンサルテーションや，教員対象の研修会を実施し，指導内容及び方法についてのアドバイスを受けた。 2-①遠足や，阿南商工会議所女性会との協働による環境問題をテーマとした紙芝居の制作，スーパーオンリーワンハイスクール事業に関する活動など，行事ごとにホームページの更新を行い，情報発信を行った。		
[本年度の重点課題] 地域とともにある学校づくり [下位組織レベル] 1 地域資源を活用した学習活動の推進	評価指標 1 竹林再生会議と連携し，地域の竹林から調達できる材料を活用した，竹紙の紙漉き作業や竹水石けん作り等の学習活動を実施する。	評価指標の達成度 1 竹林再生会議と連携し，地域の竹林から調達した材料を活用して，竹紙の紙漉き作業や竹水石けん作り等の学習活動を実施した。	総合評価 (評定) B (所見) 地元の竹林から切り出した竹を原料として，自分の卒業証書用の竹紙を漉いたり，竹紙製の名刺を配付したり，地域の催しで竹紙作品を展示・販売したりするなど，地域住民と交流を深め，地域社会に根ざした学習活動を展開することができた。	竹林から切り出した竹を加工し，漬け込み，竹紙を漉くまでの一連の工程を安定して行うために必要となる，十分な広さのスペースの確保が，継続的な課題となっている。いろいろと工夫をして活動場所の確保に努めながら，作業学習の一講座として，竹紙作りに継続して取り組んでいきたい。また，地域の催し等に竹紙作品を展示・販売するなど，機会をとりえて地域社会に発信する活動の幅も広がっていきたい。
	活動計画 1-① 5月～竹紙の原料となる竹の加工や漬け込み，石けんの原料となる竹水の採集等の作業を開始 6月～竹紙の紙漉き作業や竹水石けん作り等 7月～漉き上がった竹紙を用いた作品作り等 11月～2月 作品展示及び成果の発表等 3月～次年度の活動に向けた課題の検討等	活動計画の実施状況 1-① 5月～竹の加工や漬け込み，竹水の採集等の作業を開始した。6月～竹紙の紙漉きや竹水石けん作り等の作業を開始した。7月～漉き上がった竹紙を用いた名刺等の作品作りを開始した。10月～徳島県庁や阿南市役所にて竹紙製の名刺を配付し，活竹祭で竹紙作品の展示・販売を行った。3月～次年度の活動に向けた課題を検討する。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 校内の防災対策の見直し・検討をし、必要な訓練を行う。	評価指標 1-①長期保存可能な備蓄食を、児童生徒の90%以上が準備することを継続する。 ----- 1-②災害時の対応について、本校職員の理解を高める。 ----- 1-③避難訓練に、従来までにはなかった訓練を追加する。	評価指標の達成度 1-①長期保存可能な備蓄食を、児童生徒の96%程度が準備することを継続できた。 ----- 1-②災害時の対応について、本校職員の理解を高めることができた。 ----- 1-③避難訓練に、従来までにはなかった訓練を追加した。	総合評価 (評定) B	備蓄食については、長期保存の備蓄食が実態に合わない児童生徒については、個別に備蓄食を準備して頂いているが、消費期限の確認を確実にするとともに、できるだけ長期保存できる備蓄食で実態に合う物を模索していければと考える。 災害時の本校の避難所としての機能や避難所開設の初動としてのアクションカードについては、今年度予定していた職員へのアンケートが訓練日変更で未実施のため、次年度も継続して行っていきたい。 避難訓練について、教員配置等をより実際の場面に沿って訓練を行う予定だったが、休校により計画通りの実施ができなかったため、今後も継続して取り組んでいきたい。 また、今年度実施できなかった地域連携協議会の実施ができるように、計画を立てて実施したい。
	活動計画 1-①個別に児童生徒の備蓄食について調査・確認をする。長期保存可能な備蓄食に切り替えができていない児童生徒については、保護者へ切り替えを促すようにする。 ----- 1-②ミニ研修等で災害時の本校の避難所としての機能や避難所開設の初動としての「避難所運営アクションカード」について本校職員に伝えるとともに、災害時の連絡体制について確認を行う。 ----- 1-③昨年度から取り入れたヘルメットの活用を継続するとともに、より実際の場面に沿った訓練ができるように、教員配置等を考慮した訓練を行う。	活動計画の実施状況 1-①個別に児童生徒の備蓄食について調査・確認をし、長期保存可能な備蓄食に切り替えができていない児童生徒については、保護者へ切り替えを促した。 長期保存の備蓄食が実態に合わない児童生徒については、実態に合った備蓄食を準備できた。 1-②職員会議で災害時の本校の避難所としての機能や避難所開設の初動としての「避難所運営アクションカード」について本校職員に伝えるとともに、災害時の連絡体制について確認を行った。 ----- 1-③昨年度から取り入れたヘルメットの活用を継続して行った。教員配置等をより実際の場面に沿って訓練を行う予定であったが、訓練当日が降雪のため臨時休校となったため日時と内容を変更して実施する予定である。	(所見) 令和2年度から切り替えを行った備蓄食について、継続して準備が進んでいることは良かった。 災害時の本校の避難所としての機能や避難所開設の初動としてのアクションカードについては、今後も引き続き本校職員に伝え、周知を高める必要があると感じる。 避難訓練時のヘルメットの活用について、定期的にヘルメットを訓練で用いることで、実用生や着用の意識が高まっている。	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

[令和4年度総括評価表 教務課]

(学校名：徳島県立阿南支援学校)

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 新型コロナウイルス感染症予防対策として、教務課が担当する行事の実施方法や内容等について検討する。	評価指標 1 各学部の実態に合わせた新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、本来の学校行事数の70%程度を実施する。	評価指標の達成度 1 11月の授業参観は、新型コロナウイルス感染症による学部閉鎖があったため実施できなかったが、2月の参観日は保護者案内まで完了している。その他の行事については、各学部ごとに会場を分散するなど対策を講じ実施することができた。	総合評価 (評定) B	来年度5月より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行することを受け、体験入学会、オープンスクール、卒業式への在校生の参加等が段階的に再開されると予想される。各学部の意見を十分に聞き取り、教務課が担当する行事の実施方法について検討を行う必要がある。
	活動計画 1 授業参観について可能な限り実施できるよう計画案を複数用意し各学部の実態に応じて選択できるようにする。その他の行事でも感染症予防対策をスムーズに実施できるよう行事計画のフローチャートやチェックリストを作成する。	活動計画の実施状況 1 授業参観については各学部毎に分かれる一昨年度の案と活動場所に集まる人数を半分に分ける新たな案を課内で検討した。今年度、立案をした結果を踏まえ、行事計画のフローチャートを作成した。	(所見) 学部や学級閉鎖以外であれば、授業参観の実施のめどはついたが、準備や当日の係の負担は大きくなった。前期終業式は学部毎に分散した結果、より生徒の実態に応じた行事を実施することができた。	
[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の展開 [下位組織レベル] 1 キャリア教育の視点から、将来必要な力を養うための教育課程・教育内容の見直しを行う。	評価指標 1 各学部の課題をあげ、その70%について改善案をまとめ、8月中旬に次年度の教育課程を作成する。	評価指標の達成度 1 各学部で教育課程についてのアンケートを実施した。意見があった学部は、8月中旬に見直しを行った次年度の教育課程を作成し、9月下旬までに学部で検討、教育委員会への報告を行った。	総合評価 (評定) B	各学部で児童・生徒に応じた教育課程・教育内容の見直しを進めることができているが、学部間で共有できればさらにキャリア教育に活かされるのではないかと考える場面がある。教務課長・主任から各学部の教務課員で共有、学校全体への周知、進路指導との連携等を考えていきたい。
	活動計画 1-①小学部において、授業グループの編成や学習内容について、今年度実施しての課題点をまとめ、次年度に生かす。	活動計画の実施状況 1-①9月と12月に教育課程や時間割、学習グループの編成についてのアンケートを実施した。課題点をまとめ2月の学部会で報告し、グループ編成を考える際に参考にしてもらう。また、出てきた意見を参考に次年度の時間割を作成する予定である。	(所見) アンケートの形式を変更し、教育課程に焦点を当てた回答を多く得ることができた。各学部において、来年度在籍する児童生徒の実態を考慮した教育課程・教育内容を設定するよう進めている。	
	1-②中学部において、生徒の実態に合わせた授業グループの編成や学習内容について検討する。	1-②8月に教育課程や時間割、学習内容について、1月は8月のアンケートを受けて焦点化し意見を聞いた。課題点をまとめ、2月に学部会で検討し、年度末までに改善点をまとめる予定である。	1-③12月のアンケートを、主に変更点について意見を募る形式にした。課題点は2月の学部会で報告し、年度末までに改善案をまとめる予定である。また、職業基礎コースからコミュニケーションを中心とした学習の要望が高く、自立活動の時間を増やすことが決定した。	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の展開</p> <p>[下位組織レベル]</p> <p>1 全学部の教員からの意見をもとに,指導内容系統表をより活用しやすいものにする。</p> <p>2 子どもたちが自信を持って参加できる授業作りや問題行動の改善のために, 全学部に専門家派遣事業を活用する。</p>	<p>評価指標</p> <p>1 改訂した指導内容系統表について全学部対象のアンケートを行い, 以前より使いやすくなったとの回答を教員の90%以上から得る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1 一部指導内容系統表を改訂し,小学部にて試行した。小学部教員対象にアンケートを行い80%の回答率であった。教員からは以前より使いやすくなったとの回答を教員の90%から得ることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>研修時のマニュアルの改善と, 研修方法についての見直しは今後の課題であり,卒業後を見据えたときにトップダウンでの指導を行う場合には指導内容系統表だけでなく, 高等部の進路別チェックリストなども活用して目標を立案するなどの改善が必要であると考えられる。今後負担感を軽減するため,系統表については現状あるものを使いやすい形に改善をすすめていきながら,系統表の活用については生徒の実態把握のためにチェックは随時実施していく。</p> <p>コンサルテーションについてはスムーズに進めることができるように, 各学部に1名ずつ担当者を配置するなどの改善が必要であると考えられる。また, 昨年度同様 SWPBS の取り組みを各学部に合った形で継続していくことや, 学部間の連携を図りながら進めていくことも今後必要となってくると思われる。それらの課題を検討しながら, 今後も取り組んでいきたい。</p>
	<p>2 専門家派遣事業を活用したコンサルテーションに参加し, 授業作りや問題行動の改善に役立ったと回答した教員が全体の85%以上になる。</p>	<p>2 コンサルテーションに参加した教員6名にアンケートを実施した。授業作りや普段の指導に対してや, 問題行動の改善に対して, 6名全員が「とても役立った」と回答した。</p>	<p>B</p>	
	<p>活動計画</p> <p>1-①夏季休業中に, 各学部ごとに指導内容系統表の使い方について教科担任やクラス担任を対象に研修を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1-①各学部で, 新赴任者と希望者を対象として, 使い方等についての研修を行った。</p>	<p>(所見)</p> <p>指導内容系統表については, 多くの教員から意見を聞くことができた。それによりいくつかの課題点を明確にすることができた。今年度, 小学部において系統表の中に短期目標の「具体例」を取り入れたことによって「分かりやすくなった」という回答が多くあり, 実際すすめていくにあたって, 具体例の取り入れは必要と考えられるため課題の1つと考えられる。また, 卒業後の生活を考えてすすめていくにあたって必要とする目標と系統表の内容にずれがある。(高等部) という意見に対しては, 進路別チェックリストを参考にしながら, 今の系統表から精選し, 高等部の生徒を対象とした系統表の検討を図っていきたい。</p> <p>専門家派遣事業(コンサルテーション)では, 小学部・中学部で AI-PAC の取り組みを進めることができ, 高等部では, 卒業後の進路を考えた指導をすすめていくにあたって, 課題となる点について講師のアドバイスをいただきながら, 教員間で共通理解する時間を持ち, 共有することができた。</p>	
	<p>1-②9月末までに全教員対象に, 指導内容系統表についてのアンケートを行う。</p>	<p>1-②10月に全教員を対象に, 指導内容系統表の使い方(使いやすいかどうか等)についてのアンケートを実施した。</p>		
	<p>1-③アンケート結果をもとに必要に応じて改訂を行うとともに, 質問が出やすい箇所等についての説明マニュアルを作成する。</p>	<p>1-③アンケートの意見より, 1年間の流れと担当者を明確にしたチェック表を作成した。また, マニュアルについては現在検討中である。</p>		
	<p>2-①研究課員の中から研修担当を配置し, 計画書作成や指導, 研修の実施に当たって, 担任や担当をサポートする体制を構築する。</p>	<p>2-①研修担当リーダーが事例を行う学部所属ではなかったため, 指導等へのサポートが十分にできていないことが多かった。</p>		
	<p>2-②コンサルテーションを実施し, 指導手続きの話し合いの機会を2回設定するとともに学部研修会や報告会を1回以上開催する。</p>	<p>2-②小・中学部は, AI-PAC のコンサルテーションを9月・12月・1月に実施した。4事例で取り組み, それぞれ新しいスキルを習得するなど指導の成果があった。また, 小学部を中心に指導内容系統表の改善策に対してのコンサルテーションを7月・1月に実施した。全学部統一した改善策の検討は難しかったものの, 今後の方向性に対しての課題を共有することができた。高等部では, 教員が対応に悩んでいる事例について講師のアドバイスを受けながら教員間でアイデアを出し合い検討し共有する機会を8月・9月・12月にもつことができた。</p>		

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくりの推進</p> <p>[下位組織レベル] 1 情報モラルに関する指導の充実改善を図るために、研修や啓発活動等を計画的に推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>1 年間7回以上情報モラルに関する職員研修や啓発を実施する。また、年度末の調査において、90%以上の教員が理解し実践できたと答える。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1 研修や啓発を職員会議等において年間7回実施できた。年度末の調査では、90%の教員が「理解し、実践できた」と答えることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	<p>図書情報課としては ICT 活用能力の向上を目指して、一人一人の教員の意識の改善や向上が必要であり、研修や啓発の工夫改善として、小集団のミニ研修を学部ごとに開催してきた。しかし、まだまだ改善と改革の必要性がある。次年度は担任外の教員の ICT 機器を使用した教材作成の展示等を企画したい。</p> <p>また、PTA 役員会等に参加して、GIGA 端末の使い方を保護者にも説明、レクチャーし、理解と協力を求めている。</p> <p>学校図書館システムも軌道に乗り、貸出冊数も増え順調である。今年度、高等部では図書委員による貸出と返却の作業を行うことが人数の関係でできなかった。次年度はぜひ復活させたい。</p> <p>今年度重点的に取り組んだ事柄を、次年度以降も引き続き継承・充実発展させていくことが今後求められる。</p>
	<p>活動計画</p> <p>1 情報モラル教育年間計画をいつでも閲覧できるように配置し、職員会議や職員研修等において、啓発や研修を年間7回以上実施する。また、年度末の調査を行い成果等を評価する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1 情報モラル教育年間計画のデータが共有文書にあることを学部会で周知した。情報モラルに関する研修や啓発を7回以上実施した。</p>	<p>(所見)</p> <p>特別に時間を設けるだけでなく、職員会議等の時間を活用することによって、日常的に意識することができたものと考えられる。</p>	
<p>[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の推進</p> <p>[下位組織レベル] 1 研修や啓発の充実を図ることによって、教員一人一人の ICT 活用指導力の向上を図る。また、ICT 環境や校務システムの充実改善を図ることにより、小学部から高等部まで一貫した系統的な指導や指導に係る校務等を効果的かつ効率的にできるよう推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>1-① ICT 活用指導力に関する研修や啓発を年間7回以上実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1-① ICT 活用指導力に関する研修や啓発を年間7回以上実施することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	
	<p>1-② ICT 機器を利活用した授業を年間6回以上実施する教員の割合を90%以上とする。</p>	<p>1-② ICT 機器を利活用した授業を年間6回以上実施できた教員は80%であった。</p>	<p>(所見)</p> <p>ICT 機器を利活用した授業の実施回数を増やすためには、ICT 活用に苦手意識のある教員の意識改善が必要である。</p>	
	<p>1-③ 児童生徒の一人一台の ICT 機器を利活用し易く設定する。学部ごとに必要な研修を企画実行する。</p>	<p>1-③ GIGA 端末に児童生徒に応じたアプリケーションの追加を行い、学部ごとにミニ研修を実施した。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>1-① ICT 活用指導力に関する啓発や研修を年間7回以上実施するとともに、年度末に職員アンケートを実施し、どの授業または場面で実践したかについて調査する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1-① 研修や啓発活動を職員会議等において計画的に行った。年度末の調査も実施し評価ができた。</p>		
	<p>1-② 時宜を捉えて職員への啓発を図り、具体的な授業実践に関する職員アンケートを年度末に実施し、授業実践の回数等を調査をする。</p>	<p>1-② ICT 利活用に関する啓発を行い、年度末に授業実践回数の調査を行った。</p>		
	<p>1-③ 各種事業等への積極的な参加を図るとともに県費等による備品の充実を図り、視聴覚機器を年間2台程度増設できるようにする。</p>	<p>1-③ 新型コロナウイルス感染症対策関連の事業で、42 インチのテレビ6台が購入できた。視聴覚関連だけでなく、AppleTVなどの ICT 関連機器も充実した。</p>		
<p>[本年度の重点課題] 地域とともにある学校づくりの推進</p> <p>[下位組織レベル] 1 地域等に対しての学校ホームページによる情報発信を活性化させ、開かれた学校を目指した取り組みを積極的に推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>1 学校ホームページの情報発信を活性化し、更新が必要なページを年間6回以上更新する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1 ほとんどのページが6回以上更新できていたが、一部のページにおいてできていない状況もあった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	
	<p>活動計画</p> <p>1 学校ホームページの充実に向けての担当者等への啓発研修を推進する。また、更新頻度が上がるように、更新状況等について時宜を捉えて全職員に周知する。また時宜を捉えて、更新ができていない担当者に更新をするように促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1 教職員の学校発信意識も高まり、啓発研修の充実を図ることができた。しかし、一部のページにおいて、啓発をしてもなかなか対応ができていない状況も見られた。</p>	<p>(所見)</p> <p>アプリ等の使い方をレクチャーするミニ研修の機会も多く設けたが、児童生徒の実態の違いによって効果的に使うことができていない。また、小学部から高等部まで一貫した系統的な指導についても難しく、粘り強い啓発と研修が必要である。</p>	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の推進 [下位組織レベル] 1 人権に関する様々な情報発信を行う。	評価指標 1-①教職員に対して、人権教育に関する情報発信を行い、80%以上が情報を得ることができたとの回答を得る。	評価指標の達成度 1-① 職朝連絡や人権放送、「サンフラワー」の紙面をとおして情報発信をし、90%以上の「情報を得ることができた」の回答を得ることができた。	総合評価 (評定) B		人権に関する情報発信は、今年度と同様の方法で、内容を充実させながら実施していきたい。 研修会については、現地研修会の方法を改め、それに換わる研修方法について模索したい。 人権に関する制作活動では、当たり前のことに感謝をする気持ちや自分や周囲の人を大切に作る心の育成を目指し、来年度においても取り組むことができると考える。 しかし、「あかるいハートの木」や「平和の折り鶴」等の全児童生徒が取り組む人権活動については、児童生徒の実態の多様化により、同じ活動内容では難しい場合があると感じる。多くの児童生徒が参加できるような取り組み内容を考えたり、取り組み方法を工夫していきたい。 人権の歌については今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、表彰式や学校祭等で実際に歌うことはできなかった。来年度は、人権新聞やホームページ等をとおして、発信できる回数を増やしていきたい。 阿南市民平和のつどい実行委員より、「平和の折り鶴」の作成と、本校の児童生徒の阿南市民平和のつどいへの参加及び折り鶴献納の依頼がきている。折り鶴の作成には例年参加している。阿南市民平和のつどいは夏季休業中であるため、生徒の参加については、早期から計画する必要がある。
	活動計画 1-①-1 人権新聞「サンフラワー」の紙面を活用し、職員会議の時間に「プチ研修」を年間6回以上実施する。 1-①-2 8月と12月に校内人権教育研修会を実施する。 1-①-3 人権教育課の掲示板や職員朝会を活用し、講演や研修会等の案内を10回以上を行う。 1-①-4 1月中に教職員に対して情報を得ることができたか、アンケートを実施する。 1-②-1 さわかクラブや人権委員会のメンバーによる人権放送を昼休み時間に8回以上持つ。 1-②-2 「平和の折り鶴」づくりを6月から7月に行い、8月の平和市民祈念集会に献納する。 1-②-3 県や市が主催する作品募集事業に2回以上応募し、作品発表を行う。 1-②-4 人権週間を設定し、制作したものを掲示したり、あいさつ運動を行ったりする。	活動計画の実施状況 1-①-1 「サンフラワー」は奇数月に発行して、その月々で社会的に話題になっている内容を掲載して職員に5回(1/30現在)周知することができた。 1-①-2 8月4日に校内人権教育研修会を職員と保護者対象に実施することができた。12月の現地研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。 1-①-3 講演や研修会の案内を10回以上行うことができた。 1-①-4 教職員にアンケートを実施した結果、90パーセント以上の「人権教育に関する情報を得ることができた」の回答を得ることができた。 1-②-1 人権放送については人権委員会とさわかクラブのメンバーで5月から毎月実施でき1月まで5回実施できた。(3月までにあと2回実施予定) 1-②-2 「平和の折り鶴」では6月から7月まで児童生徒・教職員に呼びかけて144羽作成することができた。阿南市を通じて広島県に献納することができた。 1-②-3 あいぼーと徳島県主催の募集事業に応募し作詩作曲部門で人権の歌「ともだちはたからもの」が教育長賞を受賞した。人権ポスターで、阿南市主催の作品では最優秀賞、徳島県主催の作品では理事長賞を受賞した。人権の歌「ともだちはたからもの」は校内の人権放送で2回流した。 1-②-4 「あかるいハートの木」の制作では、児童生徒に、ハートのメッセージカードに「ありがとうの気持ち」を書いてもらい、掲示することができた。また、下校する児童生徒に玄関で「さようなら」運動を行うことができた。			

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 感染症予防, 事故防止対策の徹底 2 即時の課題共有と解決策の立案・実践	評価指標 1 自力通学生が自ら感染予防や事故防止を意識して安全に登下校ができる。 2 今年度版の児童生徒捜索マニュアルと不審者侵入対応マニュアルを元に訓練を実施する。訓練後にはアンケートを実施し、マニュアルや訓練について問題点等あれば職員間で共有し必要であればマニュアルの改訂等を実施して共通理解を図ることができる。	評価指標の達成度 1 各自が感染予防を怠らず、登下校できていた。自転車通学生の事故も無く、各自が安全を意識して登下校できていた。 2 それぞれマニュアルを元に訓練を実施することができた。実施後はアンケートを実施し、訓練方法やマニュアルについて共通理解をはかることができた。不審者侵入対応マニュアルについては、訓練方法も含めて大幅な改訂が必要であることを確認でき、来年度に向けて改定案を検討中である。	総合評価 (評定) B (所見) 学校安全の日や長期休業明けに通学指導を実施し自力通学生とかかわる中で、学校安全の日の集会を利用して、生徒自らが自分の行動を振りかえり、マナーやルールについて考えさせることができた。自転車点検も担任の協力もあり毎月実施することができた。児童生徒捜索マニュアルと不審者侵入対応マニュアルを元に児童生徒捜索訓練や不審者侵入対応訓練を計画し実施でき、マニュアルや訓練方法について、アンケートや運営委員会の意見を元に改訂や見直しを行い、教員に周知することができた。	今年度の指導内容を振り返り、今年度に発生した事故や問題行動について、未然に防ぐための効果的な指導方法を来年度の通学指導や集会での重点指導項目としてまとめ、取り組んでいく。 不審者侵入対応マニュアルは、今年度の訓練の結果を踏まえて、次年度には大幅な改訂を行い、訓練方法も見直して実施する。
	活動計画 1-① 学校安全の日や長期休業明けに阿南駅および南島交差点と坂下横断歩道等で年20回以上通学指導を行う。 1-② 自転車通学生に対する毎月の自転車点検の実施率を90%まで高めることができるよう該当生徒の担任の意識を高めるとともに該当生徒への指導を徹底する。 1-③ 学校安全の日には必ず集会を実施し、登下校時に感染予防や事故防止のためにどのような行動が取れているのか考えさせる時間を設ける。 2-① 今年度版の児童生徒捜索マニュアルと不審者侵入対応マニュアルを改訂点や要点を説明し、早期に職員に周知する。 2-② 各訓練の後にはアンケートを実施し、結果を職員に公表する。 2-③ 訓練結果やアンケート結果を元に課会を開き、必要であれば改訂等の作業を進め、迅速に職員に周知し、共通理解を図る。	活動計画の実施状況 1-① 1月末までに19回の通学指導を実施。残り2月と3月の学校安全の日の通学指導を実施する予定である。 1-② 学校安全の日の前後に該当生徒と担任で自転車点検を実施することを担任および該当生徒に周知することができ、1月実施分までで100%の実施率で点検していただくことができた。 1-③ 自転車通学生と公共交通機関利用通学生に分けて集会を実施した。生徒に問いかけたり、行動の振り返りをさせて、感染予防や事故防止の意識を高めることができた。 2-① 訓練前に周知することができた。 2-② 訓練後にアンケートを実施し、実施結果を職員会議で報告することができた。 2-③ 予定通り課会を開き、課の意見をまとめ、運営委員会と職員会議で教員に周知し、共通理解に努めることができた。不審者侵入対応マニュアルについては大幅改訂となり現在課の案を検討中である。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

[令和4年度総括評価表 特別活動課]

(学校名：徳島県立阿南支援学校)

重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 感染症予防, 事故防止対策の徹底	評価指標 1 「体育の日」と「学校祭」を, 感染防止対策を徹底して, 計画, 運営することができる。	評価指標の達成度 1 「体育の日」と「学校祭」を, 感染症予防対策を徹底して, 計画, 運営することができた。	総合評価 (評定) B (所見)	新型コロナウイルス感染症について, 次年度はまたどのような状況になるかわからないが, 県教育委員会の指導や校内や近隣の感染状況等に依じて, 管理職を中心に職員間で十分な協議や共通理解を行い, 計画, 運営することが必要と思われる。	
	活動計画 1-①関係教科等と協議した上で, 特別活動課において感染防止対策を最優先に考えて協議し, 「体育の日」と「学校祭」の原案を作成する。 1-②原案を関係教科, 関係各課, 学部会, 運営委員会で協議, 調整した上で, 職員会議に提案し実施要項を作成する。 1-③実施要項を基に, 各学部や係の進捗状況を確認する。懸案事項や協議事項が生じた場合には, その都度管理職等と相談しながら修正する。修正事項や共通理解事項が生じた時には職員会議等で連絡し, 共通理解を図りながら準備を進める。 1-④直前に各学部や係ごとに最終確認するよう依頼する。保護者や全教職員に確認事項を改めて周知し, 認識や行動にズレや違いが生じないようにする。	活動計画の実施状況 1-①「体育の日」については, 7月4日の特別活動課会で協議し, 原案を作成した。「学校祭」については, 9月5日の特別活動課会で協議し, 原案を作成した。 1-②「体育の日」については, 7月5日の学部会, 7月8日の運営委員会で協議して調整し, 実施計画を作成した。「学校祭」については, 9月9日の運営委員会で協議して調整し, 実施計画を作成した。 1-③「体育の日」については, 9月中旬まで酷暑であったため, 練習体制や配慮の仕方について軌道修正し, 職員全体に連絡し共通理解した。「学校祭」については, 11月8日の特別活動課会で第2次案の原案を作成し, 11月11日の運営委員会, 11月21日の職員会議で協議, 決定するなど, 調整と共通理解に努めた。 1-④校務分掌ごとに割り振りしている業務については, 各課長等と連携を図った。体育や美術等, 教科や個人に割り振りしている業務については, 教科主任等と連携を図った。			
[本年度の重点課題] 地域とともにある学校づくり [下位組織レベル] 1 地域交流及び地域貢献活動の展開	評価指標 1 高等部作業学習竹和紙班が作成する「竹水石けん」を交流校や地域の方々に配布し, 地域との交流を深める。	評価指標の達成度 1 「竹水石けん」は制作できたが, 専用の建物を持たない本校で作った物は, 法律上配布できないことがわかり, 実施しなかった。	総合評価 (評定) B (所見)	地域との交流や地域貢献について, また新たな方策を考え実施していく必要がある。	
	活動計画 1-①高等部作業学習竹和紙班がNPO法人竹林再生会議と連携して制作する「竹水石けん」の商品名を, 児童生徒会から全校児童生徒に公募し, 投票又は児童生徒会役員の話し合いで決定する。 1-②「竹水石けん」をモニターとして使用してもらう人や関係機関について, 児童生徒会を中心に協議し, 決定する。 1-③「竹水石けん」を使用してもらう人や関係機関に配布する。 1-④「竹水石けん」を使用した人にレビューを書き込んでもらう欄をホームページ内に設ける。 1-⑤ホームページ上の書き込みを校内の児童生徒に紹介し, 地域の方々の反応や感想にふれられるようにする。	活動計画の実施状況 1-①児童生徒会が, 7月5日に名前募集のチラシを配布した。60通の応募から児童生徒会役員が5点を選定した。この時点で法律上配布できないことがわかり, 活動を停止した。 1-②児童生徒会役員会では, 交流校の友だち以外に, 歌手の米津玄師さんやプロ野球の杉本裕太郎選手の名前が上がり, 配布方法について検討した。 1-③実施しなかった。 1-④実施しなかった。 1-⑤実施しなかった。			

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

[令和4年度学校評価総括表 進路指導課]

(学校名：徳島県立阿南支援学校)

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 感染症予防，事故防止対策の徹底	評価指標 1 すべての生徒が就業体験中の健康観察表を毎日記入し，感染予防の徹底ができる。	評価指標の達成度 1 すべての生徒が就業体験中の健康観察表を毎日記入し，感染予防の徹底ができた。	総合評価 (評定) B (所見) 常に新型コロナウイルス感染状況をみながら実習を立案・計画・実施し実習先とも連絡を密にして就業体験を実施した。概ね計画通りに実施でき，高等部3年生の進路については関係機関との円滑な連携ができ本人・保護者の希望に沿った進路決定ができた。 計画にはなかったがキャリア教育出前講座や会社見学等を行うことで生徒の就労意欲が高まった。	引き続き，新型コロナウイルス感染症防止対策をとったうえで就業体験を実施したい。本人と保護者の希望を尊重した丁寧な進路指導や担任の先生方には本人・保護者の考えを面談でしっかり聞き取っていただき進路指導課に伝えていただくことが大切である。そのためには進路に関するいろいろな情報を整理し密に伝達を図っていききたい。 また，関係機関との連携を図りながら就職や施設利用，卒業後の住居の問題について取り組んでいきたい。
	活動計画 1-①保護者に新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえでの就業体験への参加の有無を選択してもらう。 1-②就業体験中，生徒の朝・夕の検温と健康チェックを毎日保護者が行い，健康観察表に記入，確認印を押し実習に参加する。	活動計画の実施状況 1-① 就業体験実施時に保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策をとったうえで就業体験への参加の有無を選択し，実施の場合は参加願いを提出してもらった。 1-② 就業体験中，生徒の朝・夕の検温と健康チェックを毎日保護者が行い，健康観察表に記入，確認印を押し実習に参加することができた。		
[本年度の重点課題] 多様性を育むキャリア教育の展開 [下位組織レベル] 1 生徒の実態や希望，進路先の状況等をふまえた就業体験を実施する。 児童生徒，保護者，教職員，関係機関との意思疎通と情報共有をはかる。	評価指標 1-①就業体験を年2回以上実施する。 1-②本人，保護者，担任と意思疎通をはかり，生徒の実態と希望を把握する。	評価指標 1-①就業体験を年2回以上実施することができた。 1-②本人，保護者の希望を担任が家庭訪問や面談，ケース会等で聞き取り進路担当者話し合いをすることで生徒の実態や進路の希望について把握ができた。 1-③複数回訪問することで進路先の状況把握ができた。		
	1-③進路希望先を複数回訪問し，進路先の状況を把握する。 2-①進路相談会 高2で拡大進路相談を実施する他，必要に応じて実施する。 2-②進路説明会 7月に高1・高2の保護者，9月に高3の保護者を対象に進路説明会を実施する。 2-③進路だよりを年2回(学期末)発行する。 2-④「南部I自立支援協議会」「障がい者雇用を右上がり！企業ネットワーク」の定例会に参加する。その他，必要に応じて関係機関との連携をはかる。	2-①高2年生は1月に拡大進路相談を行い各関係機関の顔合わせや卒業後の進路についての話し合いを実施した。 2-②7月・9月に実施した。12月には中学部保護者を対象に進路説明会を行った。 2-③9月に1回発行した。次回は3月に発行予定。 2-④南部Iの定例会や協議会や各種会議に参加し各関係機関と連携することができた。		
	活動計画 1-①就業体験の実施 通年 ・職場開拓 5月 10月・希望の把握，計画，事前指導 6月 11月・実施，事後指導，評価表作成 2-①進路相談会 1月 ・拡大進路相談計画立案 ・関係機関との日程調整等 2月 ・実施 その他 随時受け付け 2-②進路説明会 6月 8月 ・案内状作成 7月 9月 ・実施 2-③進路だより 10月 3月 ・原稿作成・発行 2-④関係機関との連携	1-①就業体験の実施 通年 ・職場開拓 5月 ・希望の把握，計画，事前指導 6月 ・実施，事後指導，評価表作成 10月 ・希望の把握，計画，事前指導 11月 ・実施，事後指導，評価表作成 2-①進路相談会 12月 ・拡大進路相談計画立案 ・関係機関との日程調整等 1・2月 ・実施 その他 随時受け付け 2-②進路説明会 6月 案内状作成 7月 実施 8月 案内状作成 9月 実施 12月 ・中学部保護者対象に実施 2-③進路だより 10月 3月 ・原稿作成・発行 2-④関係機関との連携		

南部 I 自立支援協議会定例会…毎月参加
企業ネットワーク…運営委員会・研修会参加
その他…随時

南部 I 自立支援協議会定例会…毎月参加
企業ネットワーク…運営委員会・研修会参加
その他…随時

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

[令和4年度学校評価総括表 特別支援教育課]

(学校名：徳島県立阿南支援学校)

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>[本年度の重点課題]</p> <p>地域とともにある学校づくり</p> <p>[下位組織レベル]</p> <p>1 本校教員の専門性、指導力の向上を図るとともに、地域の特別支援教育に貢献できるように、センター的機能の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>1-①本校及び地域の教員の専門性向上、指導力の向上を図るため公開研修会を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1-①本校及び地域（阿南市・小松島市及び県内特別支援学校）の教員の専門性向上、指導力の向上を図るため、夏季休業中に公開研修会を実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>「特別支援教育地域まるごと専門性向上事業」による公開研修会では、全国的にも著名な川上先生の研修を受けることができ、参加者からも「明日からの実践に活かせる内容であった」等の意見を聞くことができた。</p> <p>本校教員が校内外で講師を担当した研修会においても、専門性及び指導力の向上につながる内容での実施ができた。</p>	<p>巡回相談等のセンター的機能に関するニーズは依然として高い状況にある。特別支援学級担任者研修会参加者からも「本校の巡回相談を利用したい」との意見があったように本校においても同様の状況にある。地域からのすべてのニーズに対応するのは困難であるため、リモートシステムを有効的に活用するなど、効率的な相談対応や研修実施を進めていければと考えている。</p>
	<p>1-②本校教員の専門性向上、指導力の向上を図る研修会を5回以上開催する。</p>	<p>1-②本校の新規赴任者及び初任者を中心に、指導力の向上を図るための研修会を7回開催した。</p>		
	<p>1-③地域の特別支援教育の推進を図るため、総合教育センターと連携し、特別支援学級担任者や初任者への研修を担当する。</p>	<p>1-③阿南市及び小松島市の小・中学校数校を対象に特別支援学級担任者に対する研修や県内の初任者を対象にした研修を実施した。</p>		
	<p>1-④地域の特別支援教育の推進を図るため、ひまわり教室（阿南市）への支援を3回以上行う。</p>	<p>1-④5月から7月にかけて、月に1度ひまわり教室へ訪問し、学習内容の検討や今後の運営方法について話し合った。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>1-①「特別支援教育地域まるごと専門性向上事業」を活用し、外部講師による研修会を開催する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1-①「特別支援教育地域まるごと専門性向上事業」を活用し、リモートシステムにて、東京都立矢口特別支援学校の川上康則氏による公開研修会を実施した。</p>		
<p>1-②本校教員を講師とし、専門性、指導力の向上に繋がるような研修会を5回以上実施する。</p>	<p>1-②本校の特別支援教育コーディネーターや巡回相談員が年度当初及び夏季休業中等、計画的に個別の教育支援計画や本校のセンター的機能についての研修会を時季を捉えて実施した。</p>			
<p>1-③特別支援学級担任者や初任者への研修を担当し、特別支援教育及び本校のセンター的機能について周知を図る。</p>	<p>1-③特別支援学級担任者への研修では、障がい特性の基本的な理解と対応や自立活動について実施した。実施後のアンケートでは、「巡回相談を利用したい。」との意見があった。初任者への研修では、特別支援教育コーディネーターや巡回相談員の役割について、本校での活動を例に挙げながら実施した。</p>			
<p>1-④巡回相談員がひまわり教室に定期的に訪問し、サポート及び助言を行う。</p>	<p>1-④ひまわり教室への訪問時には、教室内で支援者へのサポートや動画録画等の環境整備を行った。授業後の反省会では、学習内容の検討や今後の運営方法について支援者と話し合った。</p>			

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[本年度の重点課題] 安心・安全な学校づくり [下位組織レベル] 1 児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように感染予防対策の徹底を図る。 2 教員対象の研修を計画し、傷病者発生時の緊急対応について、意識やスキルを高める。	評価指標 1 感染症予防対策（健康観察や手洗い・手指消毒、マスク着用、定期的な消毒、給食における予防対策）が徹底されたという教員の評価が80%以上となる。 2 5種類の緊急対応についての研修において、教員の参加率が90%となる。	評価指標の達成度 1 感染症予防対策を徹底できたという教員の評価が94.4%であった。一部のクラスにおいてマスク着用が不十分であると評価された。 2 5種類の緊急対応についての研修において、すべて90%以上であり、全研修の教員の参加率は98%であった。	総合評価 (評定) B (所見) マスク着用が不十分であるとの評価があったが、ほとんどの教員が感染症予防対策に積極的に取り組み、課題は特に見られなかった。指導をしても、実態や特性からマスク着用が難しい児童・生徒がいるため、教員によっては予防対策の徹底の評価を厳しく判断していると考えられる。 緊急対応についての研修は、資料配付や動画視聴等により研修内容の理解が更に深まった。動画視聴による緊急対応訓練は、自分の都合の良い時間に何度も見返すことができて有効だった。	今後の感染症に対する国や県の方針に則り、引き続き必要な感染症予防対策が実施できるように、組織的に取り組めるようにする。 緊急対応に対する重要性を周知し自分のこととして捉えることができるように啓発するとともに、年度初めの繁忙期に時間的制約がある中、必須研修をどのように実施していくか、今後も課会等で協議・検討していく必要がある。
	活動計画 1-①登校後と下校前の健康観察表を各クラスに配布し、表に基づいて担任が児童生徒の検温・観察を行う。異常の早期発見に努め、迅速に対応する。 1-②給食当番チェック表、健康観察表（教員用）を作成し、給食当番の健康状態等を確認する。給食においては、密を避けるための環境設定を行う。 1-③感染症予防対策チェック表を作成し、それぞれの項目（a手洗い、b手指消毒、c換気、d定期的な消毒、eマスク着用、f保健室との連携、g児童生徒への指導について）について、月に1回クラス毎にチェックして振り返るようにする。 1-④月1回の課会において、校内ガイドラインや感染予防対策の不備や改善点を話し合い、健康管理や環境衛生を良好に保つ取り組みを進める。決まったことや現状を月1回の職員会議等で周知・提案し、感染予防対策の徹底を図る。 2-①研修の内容について、緊急対応のポイントをまとめた資料を作成し、配布する。内容によっては、場面や状況を設定して、実際の対応を撮影した動画を作成し、研修に活用する。 2-②参加時に名簿チェックを実施し、研修後に集計する。	活動計画の実施状況 1-①登校後と下校前の毎日最低2回の検温と健康観察を実施し、健康観察表に記録した。普段と体調が少しでも異なる場合は、養護教諭に連絡する等、迅速に対応した。 1-②給食当番チェック表や教員の健康観察表を各教員が記録していくことで、衛生面や健康管理面への意識を高めることができた。 1-③感染症予防対策チェック表へのチェックを毎月末にクラス毎に依頼した。チェック結果は職員会議で報告し、対策の継続を呼びかけた。換気については昼休み毎に生活委員会が校内放送で励行を呼びかけた。養護教諭が校内巡視を行った。 1-④月1回の課会では、感染予防対策や校内の状況を話し合った。健康管理や環境衛生の改善点については、職員会議や学部会で具体的に説明し、周知した。 2-①それぞれの研修において、デモンストラーションをしながら資料の説明を行い、実技の練習を行った。緊急対応研修は、感染症予防の観点から動画視聴形式で行った。 2-②研修後に参加者名簿とアンケートで参加率を集計した。緊急対応訓練については課会・学校保健委員会でアンケート結果を報告し、次回に向けて検討を行った。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった